

「投資」のリスクと 対処法

あんびる えつこ Ambiru Etsuko 文部科学省消費者教育アドバイザー

「子供のお金教育を考える会」代表(<http://www.kids-money.jp/>)。著書に「アクティブ・ラーニングで楽しく！消費者教育ワークショップ実践集」(大修館書店、2018年)ほか。

お金理解度チェック

次の①～③のうち、内容が合っていると思うものの□に☑をしましょう。

- ①「投資」は、短期間の値上がりをねらって、利益を得ようとするものである
- ②「投資」でも、景気がよい時であれば、リスクを考える必要はない
- ③「投資」は、その対象や国・地域、タイミング(時間)をずらすなどして、リスクをコントロールすることが大切である

内容が合っているもの(☑)は……③のみ

大手銀行の定期預金の金利が0.002%……などという超低金利の昨今。これでは100万円を10年間預けても、税引き後の利息は160円にも満たない額です。将来必要になるお金を確保するためには、積極的な資産作りを考える必要があるかもしれません。今回は「投資」についての理解を深め、基本的なリスクや、リスクをコントロールする方法を学んでいきます。

「投資」はお金を“殖やす”“回す”

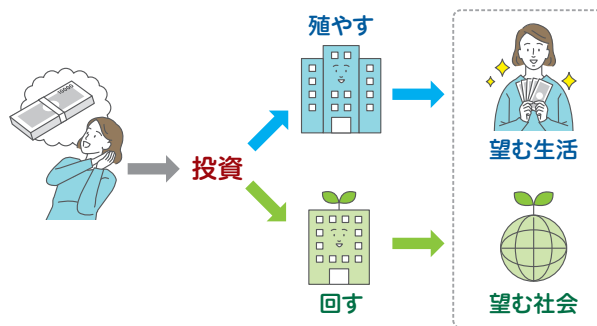
「投資」も「貯蓄」も、将来のための資産作りという点は同じです。では、どこが違うのでしょうか。「貯蓄」は、文字どおりお金を“蓄える”もので、必要な時にお金を引き出せるよう、安全性、確実性、そして流動性を重視します。具体的には銀行の預金などが、これに当たります。

一方、「投資」は、今あるお金を使って収益を得ることを期待し、“殖やす”ことを念頭に行います。株式や投資信託などがその代表的なもので、当面、使う予定のないお金での運用が適しています。

また「投資」には、お金を“殖やす”だけでなく、自分が望む社会の実現のために、お金を“回す”という側面もあります。例えば「ESG投資」は、企業の財務情報だけでなく、環境や社会、企業

統治に配慮しているかを重視して投資をするものです。SDGs(持続可能な開発目標)の観点からも、今、投資家の関心を集めています。

インターネット上で発表された“実現したいこと”に賛同して資金提供を行う「クラウドファンディング」も、近年、話題になっています。その社会的意義を重要視してリターンを求めない寄付型や、モノやサービスなどの特典を受け取る購入型のクラウドファンディングもありますが、配当というかたちでリターンを受け取る投資型、利子で一定のリターンを受け取る融資型など、より出資に近いものもあり、「投資」の選択肢の1つになりつつあります。







「投資」のリスクとは

「投資」には、リスクが伴います(表)。まず、投資した資産の価値が変動する「価格変動リス

表 投資の主なリスク

リスクの種類	内容
価格変動リスク	売却時の価格が、購入時の価格を上回る可能性も、下回る可能性もある
信用リスク	株式や債券などを発行している企業や国などが、財政難や経営の悪化などで、投資した元本や利息を支払う能力が無くなる可能性がある
為替変動リスク	外国の通貨で取引される「外貨建て」の金融商品は、為替相場の動きによって、円換算した際に円での手取り額が増えたり、逆に損をする可能性がある
流動性リスク	金融商品を売りたいときに、希望する価格で売ることができなかつたり、市場で売ることができなかつたりする可能性がある

図 分散投資とは

 資産グループの分散 預貯金・国内債券・国内株式・外国債券・外国株式・不動産・商品(金、原油など)など異なる値動きの傾向がある資産グループの商品を組み合わせる	 対象の分散 異なる値動きをする業種・業態の企業など投資の対象を組み合わせる	 地域の分散 複数の国や地域の株式、債券、通貨などを組み合わせる	 時間の分散 投資のタイミング(時間)を分ける
--	---	---	--

昔からの言葉に「卵は1つのかごに盛るな」というものがあります。これは、1つのかごに全部盛っていけば、そのかごを落とした時にすべて割れてしまうけれど、他のかごに分けていけば、割れないで済む卵があるという意味です。「投資」も分散投資していくことでリスクを減らすことができます(図)。

まず資産グループの分散が考えられます。経済状況の変化に対して異なる値動きをするもの、例

えば株式と債券に分散して投資していれば、どちらかが値下がりしても、ほかの資産は値上がりしている可能性があります。また、同じ株式でも違う動きをする銘柄・対象に分散したり、国や地域を分散したりすることで、同じようにリスク等を軽減できるというわけです。

また、一度に多額の投資をするのではなく、投資するタイミングを分散することで、高値で購入するリスクを低減することが可能です。定期的に定額の投資を行い、価格が高い時には少なく、低い時には多く購入する「ドル・コスト平均法」を利用すれば、長い目でみると1回当たりの投資価格が平準化され、急な値下がりが生じても損失の程度を抑えることができます。

次に考えたいリスクは「信用リスク」です。これは、株式や債券などを発行している企業や国の経営や財政の悪化を受けて、投資家から集めたお金や利息などを返済できなくなる可能性を指します。

外貨建ての金融商品などは、為替相場の動きによって、より大きな収益を得られる場合と、逆にせっかくの収益が損なわれる場合がある「為替変動リスク」を想定しなくてはなりません。また「投資」には、売却の際に預金よりも一般的に多くの手順が必要であることや、希望する価格や市場での売却が難しい場合があり、このようなリスクを「流動性リスク」といいます。

また、一度に多額の投資をするのではなく、投資するタイミングを分散することで、高値で購入するリスクを低減することが可能です。定期的に定額の投資を行い、価格が高い時には少なく、低い時には多く購入する「ドル・コスト平均法」を利用すれば、長い目でみると1回当たりの投資価格が平準化され、急な値下がりが生じても損失の程度を抑えることができます。

長期投資もリスクを小さくする効果があります。一般的に保有期間が長くなるに従って、投資の平均収益率は安定していくという傾向があるからです。また投資期間が長ければ、投資資金を運用して得られた利益がさらに運用されて増えていく「複利」の効果も期待できます。

「投資」にリスクはつきもの。中長期的に分散して「投資」を行うことで、そうしたリスクをうまくコントロールしていくことが大切です。

投資のリスクは「分散」「長期」でコントロール



こうした「投資」のリスクには、どう対処したらよいでしょう。